

市史通信

【目次】

- 横浜川崎連合防護団発団式
- 第八地区の区画整理
—震災復興土地区画整理事業—
- 大正・昭和はじめの地図の旅
～安室吉弥家資料より(続)～
- 所蔵資料紹介
「電車停留場名並乗換呼方」
- 市史資料室たより



鎮火演習（伊勢佐木町松屋付近）1932年9月1日 横浜市史資料室所蔵

第52号

【発行日】2025年3月28日

【編集・発行】横浜市史資料室
〒220-0032横浜市西区老松町1番地
横浜市中央図書館・地下1階

【電話】045-251-3260

【FAX】045-251-7321

【E-mail】

sisiriyou@ml.city.yokohama.jp

【ホームページ】

[https://www.city.yokohama.lg.jp/](https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/gaiyo/shishiryō/)city-info/yokohamashi/gaiyo/
shishiryō/

横浜川崎連合防護団発団式

はじめに

一九三二（昭和七）年九月一日の震災記念日に、横浜川崎連合防護団発団式が行なわれた。発団式に伴い鎮火演習が実施された。爆撃機からの模擬爆弾投下により、神奈川県庁・伊勢佐木町の百貨店松屋付近・神奈川会館の全部で三か所の火災が起こった設定であった。

写真はその時のもので、中央の建物が松屋である。左下の吉田橋周辺には法被を着た消防員が、消火活動をする様子が見える。松屋の壁面左側に「祝横浜川崎市連合防護団発団」の垂れ幕があるが、右側には「夜具地と綿の特売」の幕がかけられ、入口の上には「夏物最後の大売払い」の文字が見られる。前年に満州事変が起きており、日常のくらしにその影響が表われてきていた。松屋の建物の窓や周囲の沿道、家屋の物干し台から多くの人々が消火活動を見物している。撮影したのがイセビル・オール写真社なので、イセビルから撮影したものであろうか。

横浜市史資料室では、昨年防護団発団式及び演習の写真を入手した。写真の裏には、写真社名とその電話番号、写真番号が書かれた赤色のスタンプが押されている。番号により、販売されたのかも知れない。所蔵する写真には一から三八まで番号が振られているが、

欠番があるので全部で三五枚である。同月には、これらを収録した、栗原清一編『横浜川崎連合防護団発団式記念帖』（イセビル・オール写真社発行）が出版されている。本稿では、写真のうちのいくつかを紹介したい。

横浜川崎連合防護団の編成

まず、防護団について述べたい。一九三三（大正一二）年の関東大震災による被災の経験から、陸軍は非常時の消防・救護・治安維持活動などに市民の協力が必要としていた。満州事変後に、東京では各種団体を市長のもとに組織した防護団が作られた。東京警備司令部の働きかけにより、一九三一（昭和七）年四月に、横浜市・川崎市・神奈川県・東京警備司令部・横浜憲兵隊の間で「横浜川崎非常変災要務規約」が結ばれた。非常変災からの防護を目的として、各官庁関係者により横浜・川崎防護委員会を設置し、軍民官が一体となった地域防衛体制を目指すものであった。

この規約に基づき、九月一日に横浜市長を団長、川崎市長を副団長に、横浜川崎連合防護団が発足した。本部は横浜市役所に置いた。横浜市の五区（鶴見・神奈川・中・保土ヶ谷・磯子）に川崎市を加えた六行政区域に組織し、横浜・川崎両市の防護団をもって横浜川崎連合防護団が編成された。

防護団は、当該区域の在郷軍人分会・青年団・青年訓練所・女子青年会・婦